

大会派遣 / 研修会参加

2018 JYC インターシティーカップ WEST 参加報告

----- 「2018 JYC インターシティーカップ (U-15)に参加して」 3級審判員：高橋 遼 -----

2018年8月9日から8月12日の3日間、JGREEN 堺において開催された「2018 JCY インターシティカップ (U-15)」に、8月9日の1日目に審判員として参加させて頂きました。

はじめに、お世話になっております、兵庫県サッカー協会、ならびに神戸市サッカー協会、そして当日お世話になりました、関西サッカー協会、滋賀県サッカー協会、関西学生サッカー連盟審判部、大会運営委員会の皆様に厚く感謝申し上げます。

短い間でしたが今回の研修で学ばせて頂いたことを教訓に、これからの審判活動に励みます。ありがとうございました。

以下、報告させていただきます。

8月9日(1日目)

この大会では新競技規則「2018/2019 Laws of the Game サッカー競技規則」が適用となりました。そのため、運営委員会含めこの大会に関わる全ての人に新競技規則を徹底させる必要がありました。そのためには競技規則を用いて試合を進行させる審判員自身の徹底した理解が必要になります。

今回は改正点を中心に関西学生サッカー連盟 審判部の方に解説していただいた後、この研修会のテーマ、「Players First・気付き」が発表され、一次ラウンドの各試合を関西4府県のユース審判員10名で担当させて頂きました。

9:15 開講式
10:30 インターシティカップ審判員 実技研修
17:00 解散

【担当試合】

・一次ラウンド 10:20 セレッソ西 FC vs ヴィアティン三重

この試合では副審2を務めさせて頂きました。

出来るだけサイドステップを用いて試合を正面から見る、タッチライン付近での積極的なファウルサポート、ゴールラインでの判定、この三点を特に意識して臨みました。

インストラクターからは総合的に良と言っていただきましたが、2回ほどタッチラインでのラインアウトの判定で迷ってしまったことがあったので、ここが反省点です。

・一次ラウンド 15:50 神戸FC vs シルフィードFC

この試合では主審を務めさせて頂きました。

出来るだけ近くで、近すぎず、遠すぎず、的確に判定すること、そして前半部分で判定基準を示すこと、を心がけました。

ただ、後半、時間の計測の少しミスがあり、第4の審判員から指摘がありました。タイムキーパーを務める主審の時間計測のミスは重大であって、今後無くしていかなければならない反省点です。

1日でしたが、貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

以上、報告とさせていただきます。

----- 「インターシティカップ (U-15)WEST に参加して」 3級審判員：佐藤 翔太 -----



平成30年8月9日～12日、J-GREEN 堺で開催された「2018JCY インターシティカップ(U-15)WEST」に9日～11日の3日間参加させていただきました。

初めに、日頃からお世話になっている兵庫県サッカー協会、明石サッカー協会、当日お世話になったインストラクターの方々、学連審判部、大会運営の方々、今回このような素晴らしい研修会に行かせて頂いたことを感謝しております。本当にありがとうございました。

以下、報告させていただきます。

8月9日(木) 【1日目】

9:15	開校式
10:30	インターシティカップ審判実技研修
17:00	解散

この大会は、2018/2019 競技規則で行われるということで、改正点を中心に解説をして頂いた後、この研修のテーマ「プレイヤーズファースト・気付き」が発表され、1次ラウンド第1節・第2節を、研修に参加した関西4府県10人のユース審判員で担当させていただきました。

[担当試合]

1次ラウンド 10:20 KO

サンフレッチェくにびきフットボールクラブ vs 長崎ドリームFC

R 佐藤翔太 A1 福吉海偉氏 A2 森川雅也氏 ins 鳥家浩司氏

この試合、最近自分の課題である「ファウルの基準」を自分のテーマにし、試合に臨みました。自分の中では上手く出来たつもりだったのですが、ハーフタイムに「ペナルティーエリア付近やタッチライン付近に寄っていない。」とご指摘を頂き、後半はより近くで判定するように心がけました。

この試合で1番改善しないといけないのが、後半の中盤頃、ペナルティーエリア内で守備側競技者が攻撃側競技者に対して、無謀に挑みトリップした事象があり、自分は見えているにも関わらず笛を吹けなかったことです。

試合後の振り返りで、この事象が起こった時、競技者が自分の前に何人もいる状況で、しかもかなり距離が離れていた、ということをお教えいただき、自信を持って判定をするためにもポジショニングが本当に重要だと学びました。

第1ラウンド 15:30KO
トリニータ宇佐 vs 武生FC

R 古野敦大氏 A1 榎波俊太氏 A2 佐藤翔太 ins 鳥家浩司氏

「レフェリーをサポートするとはどういうことかを考えてやってみるといいよ。」と、学連審判部の方にアドバイスを頂き、そこを意識して試合を担当しました。

レフェリーサイドでボールが出た場面で、最後に触ったのがどちらの競技者かわからない状態で、無理に頑張って旗を指した結果、レフェリーと指し違いが起こったシーンがあり、わからない時に無理に頑張るのではなく、わからない時はわからないと意思表示をすることもレフェリーにとっては大事なサインなんだと学びました。

8月10日(金)【2日目】

13:00	開校式
15:30	インターシティカップ審判実技研修
20:00	夕食
21:00	全体研修会
22:30	交流会

昨日とメンバーが変り、関西5府県から参加した9人で、17-32位トーナメント(1回戦)・1-16位トーナメント(1回戦)を担当させていただきました。

【担当試合】

1-16位トーナメント(1回戦)17:25KO
徳島ヴォルティス vs 名古屋FC・EAST

R 佐藤翔太 A1 日野林駿氏 A2 佐古大輔氏 ins 金野晋氏

前日の反省をもとに、タッチライン付近やペナルティーエリア付近に近づこうと意識してレフェリングをしました。


ハーフタイムに「センターサークル付近での立ち止まり禁止」と課題を頂き、意識をしてレフェリングをしているつもりだったのですが、覚えているだけでも5回以上止まってしまっていて、自分の動きの悪さを痛感しました。

試合後、「自分が競技者のパスコースに入っている時に必ずしている事、大きく首を振る=ポジショニングが悪い、笛からフリーキックを蹴らせるまでスムーズにするにはどうすればいいのかが。」をお教えいただきました。

[全体研修会 ins 大歳氏]

「保険の仕事をしています。」というお話から始まり、交通事故が起こるまでに3つの要素①認知 ②判断 ③行動があり、この3要素をレフェリーに置きかえて各グループでディスカッションをしました。

※例 信号	認知	判断	行動
赤信号	→	止まろう	→ ブレーキをふむ
黄信号	→	止まろう	→ ブレーキをふむ
		↘ 行っちゃえ	→ アクセルをふむ


 判断をする材料・・・急いでいる
煽られている など…

これをレフェリーに置き換えると……

認知	判断	行動
相手を蹴った	→ 無謀である	→ イエローカード
パスが出そう	→ 次の争点へ行こう	→ 走る

このように、判定をするまでに無意識にこの作業をしていることがわかりました。そして、試合中ずっとこの動作を繰り返すことで、良い判定ができるのではないか?という考えを全体で共有しました。

この作業を完璧にするためには……… 正しい判断材料を多く集める
↓
何をどこで認知するのか
↓
それを見るための動き

この流れが大切だということを学びました。

8月11日(土)【3日目】

6:30	モーニングトレーニング
7:00	朝食
8:00	全体ミーティング
9:00	インターシティカップ審判実技研修
12:30	昼食
13:00	閉校式

[担当試合]

17-32位トーナメント(2回戦) 8:45KO
カターレ富山 vs FC琉球

R 佐藤翔太 A1 清明学院 A2 清明学院 ins 鳥家浩司氏

この試合でも、ポジショニングについて指摘していただきました。

- ①タッチライン付近で、ボールが詰まったタイミングで外から見に行く
- ②距離を詰めながら、ペナルティーエリアの角までは行くようにする
- ③出し手と受け手が同時に見える位置と体の向き
- ④受け手がパスを受けられるのかどうかでパスコースを限定する

どれも自分ができていないことが分かり、とても勉強になりました。

【研修を終えて】

この3日の研修で特に心に残っている言葉が、「初心に戻る」です。

試合数をこなしていくうちに、変に試合になれてしまい、いざと言う時に焦ってしまった結果が、初日のミスに繋がったんだと反省しています。

もう一度初心に戻り、これから1試合1試合を無駄にすることなく、精一杯頑張っていこうと思うので、これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



以上